

2023（令和5）年度 「政治経済シラバス」

「政治・経済」 シラバス	単位数	2単位・3単位
	学科・学年	普通科 第3学年

科目担当 古見 勝芳 横山 俊治

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	1 広い視野に立って、民主主義の本質について理解する。 2 現代の政治、経済、国際関係などの仕組みや動向などについて理解を深め、政治や経済の基本的な見方や考え方を身につける。 3 現代の諸課題について、多面的・多角的かつ主体的に考察し、公正な判断力を養い、良識ある公民としての能力と態度を身につける。
使用教科書・副教材等	教科書：改訂版 政治・経済（数研出版） 副教材：最新政治・経済資料集2023（第一学習社） 政治・経済 整理ノート(数研出版)

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

学 期	月	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	備 考	考 査 範 囲
第 1 学 期	4	政治経済の勉強について	<input type="checkbox"/> 学習の意義とガイダンス（年間計画・評価等説明）	テ ス ト 範 囲 の 学 習 状 況 を 自 己 評 価 す る。	中 間 考 査
	5	第1編 現代の政治 第1章 民主政治の基本原則 と日本国憲法	<input type="checkbox"/> 民主主義の成り立ちを歴史的観点、比較政治的観点から理解する。 <input type="checkbox"/> 各国の政治制度を理解し、近年の動きを考察する。 <input type="checkbox"/> 日本国憲法の成立過程や、三大原理、最高法規性などの日本国憲法の基本的な事項について理解し、具体的な事例に即しながら、その課題について考察する。		
	6		<input type="checkbox"/> 国会、内閣、裁判所の三権について、そのしくみや役割について理解し、その課題について考察する。		
	7				
	9	第2章 現代の国際政治	<input type="checkbox"/> 国際政治の動向、戦後国際政治の経緯、国際連合をはじめとする国際機構の役割を理解するとともに、国際平和や人類の福祉に寄与する日本の役割について考察する。 <input type="checkbox"/> 第二次世界大戦後の国際政治のあゆみを、概観して理解する。	テ ス ト 範 囲 の 学 習 状 況 を 自 己 評 価 す る。	期 末 考 査

2011	第2編 現代の経済	<input type="checkbox"/> 資本主義経済と社会主義経済の特徴やその変容について理解する。 <input type="checkbox"/> 市場経済の機能を理解するとともに、経済主体の中で政府が果たしている役割を理解する。 <input type="checkbox"/> 現代の金融、財政のしくみを理解し、その問題点を考える。 <input type="checkbox"/> 日本経済が直面する経済の諸問題を理解する。		中間 考査
	第1章 現代経済のしくみと 特質			
11	第2章 国民経済と国際経済	<input type="checkbox"/> 国際経済の仕組みを理解し、その中で日本がどのような役割を果たしているかを考える。 <input type="checkbox"/> 地球環境問題に対して、個人ができることを考える。 <input type="checkbox"/> 日本経済の位置を統計資料で把握し、国際貢献について考える。	テスト 範囲の学 習状況 を自己 評価す る。	期 末 考 査
第3 学期	第3編 現代社会の諸課題 センター入試対策	<input type="checkbox"/> 現代日本が抱える諸課題に対して、積極的に関心を持たせ、解決することへの方法を考える。 <input type="checkbox"/> センター入試の出題形式に慣れ、その解答方法を修得する。時間配分なども考慮する。	テスト 範囲の学 習状況 を自己 評価す る。	学 年 末 考 査
【年間の学習状況の評価方法】 定期考査、提出物・授業への取り組み状況等を総合的に判断して評価を行う。				

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

評価の観点及び内容		評価方法
関心・意欲・態度	現代の政治、経済、国際関係について関心を高め、意欲的に課題を追究する態度や客観的に考察しようとする態度を身に付けているか。	授業の 組み、 ノート
思考・判断	現代の政治、経済、国際関係にかかわる事柄から課題を見だし、課題の本質や解決の方法などについて、広い視野に立って多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえながら公正に判断しているか。	ノート 定期考査
技能・表現	現代の政治、経済、国際関係にかかわる諸資料を様々なマスメディアを通して収集し、役立つ情報を活用して学習の中で、追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現できているか。	ノート 課題
知識・理解	現代の政治、経済、国際関係に関する基本的な事柄や理論などについて理解し、その知識を身に付けているか。	定期考査、 課題、 小テスト

「高等学校 公共」シラバス

科目	公共	単位	2	学年	1	科目担当：具志飛馬、田原伸繁、仲宗根義紀
使用教科書	高等学校 新公共(第一学習社)			副教材等	新公共ノート(第一学習社) 最新公共資料集(第一学習社)	

学習の 到達目標	<p>人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。
-------------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したりしている。	よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

月	学習項目	■学習内容(ねらい)・評価の観点	a	b	c	評価方法
4	第1編 公共の扉					
	第1章 公共的な空間をつくる私たち I 公共的な空間と人間のかかわり 1 社会に生きる私たち 2 個人の尊厳と自主・自律 3 多様性と共通性 4 キャリア形成と自己実現 II 社会に参画する自立した主体として 1 伝統や文化とのかかわり	■社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などのさまざまな集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることを学ぶ。 ・人生の中で青年期はどのような意味をもつのか、自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としてのあり方生き方について理解している。 ・人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いのさまざまな立場を理解し高めあうことのできる社会的な存在であることを理解している。 ・公共的な空間と人間との関わり、個人の尊厳と自主・自律、人間と社会の多様性と共通性などに着目して考えている。 ・孤立して生きるのではなく、地域社会などのさまざまな集団の一員として生きるとともに、異文化などの他者との協働により、人間としてのあり方・生き方を多面的・多角的に考察、表現している。 ・自分自身が、自主的によりよい公共的な空間を作り出し、いこうとする自立した主体になることが、自らのキャリア形成とともに、よりよい社会の形成に結び付くことについて理解している。 ・伝統や文化と自らの行動様式や価値観との関係について考察している。 ・公共的な空間をつくる私たちについて、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 I 人間としてのあり方生き方についての探求 1 人間と社会のあり方についての見方・考え方	■古今東西の先人の取り組み、知恵などを踏まえ、社会に参画する際の選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論を理解する。 ・選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解している。 ・環境保護や生命倫理に関する事例をもとに、自らも他者も	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査

月	学習項目	■学習内容(ねらい) ・評価の観点	a	b	c	評価方法
	2 実社会の事例から考える～環境保護 3 実社会の事例から考える～生命倫理 II 選択・判断の手がかりとなる倫理的価値 1 公共的な空間を形成するための考え方 2 よりよく生きる行為者として活動するために	共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、選択・判断の手掛かりとしての二つの考え方をもとに、行為者自身の人間としてのあり方生き方について探求することが、よりよく生きていく上で重要であることについて理解している。 ・倫理的価値の判断において、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方と、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などを活用し、自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、思考実験などを通して、多面的・多角的に考察、表現している。 ・人間としてのあり方生き方に関わる諸資料から、よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。 ・幸福、正義、公正などに着目して考えている。 ・公共的な空間でどのように生きるかについて、先哲の生き方などを参考に、人間としてのあり方生き方について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。		○		
5	第3章 公共的な空間における基本的原理 I 自立した主体となることに向けて 1 人間の尊厳と平等 2 個人の尊重 3 民主政治の基本的原理 4 法の支配 5 自由・権利と責任・義務 II よりよい公共的な空間づくりをめざして 1 世界のおもな政治体制 2 日本国憲法に生きる基本的原理	■古今東西の先人の取り組み、知恵などを踏まえ、公共的な空間における基本的原理を理解する。 ・各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解している。 ・人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について理解している。 ・幸福、正義、公正などに着目して考えている。 ・公共的な空間における基本的原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現している。 ・個人と国家・社会との関係から、世界のおもな政治体制について、自己のあり方生き方と民主主義がどのように関係しているか理解している。 ・公共的な空間における基本的原理と日本国憲法の基本的原則を関連させながら、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	○			・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち					
6	第1章 法的な主体となる私たち 主題1 法や規範の意義と役割 1 私たちの生活と法 2 法と基本的人権 3 自由・平等と法・規範 4 法をよりよく変えていくために	■憲法の下、適正な手続きに則り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解する。 ■法やルールを定める時には、どのようなことに配慮する必要があるかを理解する。 ・法や規範の意義及び役割に関わる現実社会の事例や課題を理解している。 ・生徒に身近な紛争や課題を取り上げ、どのようにすれば公平・公正に調整できるのか、主体的なルールを作成・利用することで考察、構想、表現している。 ・法には国家と国民の間を規律する公法や、私人間を規律する私法などがあること、法は刑罰などによって国民の行為を規制し社会の秩序を維持するだけでなく、国民の活動を積極的に促進し、紛争を解決するなど、日常生活に密接に関連していることを理解している。 ・基本的人権が保障されるにいたった経緯を、現実社会の諸課題に関わる諸資料から、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 ・法をよりよく変えていくために、自由権の意味や、社会権が私たちの生活をどのように変えたのか、新しい人権とは何かをさまざまな立場に立って考察している。 ・幸福、正義、公正などに着目して考えている。 ・法や規範の意義と役割について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	○	○		・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	主題2 契約と消費者の権利・責任	■契約が対等な当事者間の合意といえるための条件を理解する。				・授業態度 ・発問評価

月	学習項目	■学習内容(ねらい) ・評価の観点	a	b	c	評価方法
7	1 さまざまな契約と法 2 消費者の権利と責任	<ul style="list-style-type: none"> ・成年年齢が18歳以上となったことに対し、成年年齢の意味と成年の責任について理解している。 ・契約と消費者の権利・責任に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 ・家庭科など他教科で学んだ知識もふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 ・契約と消費者の権利・責任について、現代の諸課題を具体的な例をもとに、主体的に解決しようとしている。 	○			<ul style="list-style-type: none"> ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	主題3 司法参加の意義 1 裁判所と人権保障	<ul style="list-style-type: none"> ■個人や社会の紛争を法に基づいて公正に解決するために必要なしくみと、国民が果たすべき責任を理解する。 ・国民の権利を守り、社会秩序を維持するために、公正な裁判が保障され、法律家が重要な役割を果たしていることを理解している。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 ・検察審査会や国民の司法参加の意義など、具体的な主題を設定し、その主題を追究・解決するために考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 ・司法参加の意義について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	○			<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	第2章 政治的な主体となる私たち	<ul style="list-style-type: none"> ■よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解する。 				
9	主題4 政治参加と公正な世論の形成 1 選挙の意義と課題 2 政治参加と世論形成 3 国会と立法 4 内閣と行政の民主化 5 地方自治と住民の福祉	<ul style="list-style-type: none"> ■民主政治を推進するために、私たちが果たすべき責任を理解する。 ・政治参加と公正な世論形成に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 ・選挙権年齢が18歳以上であることを踏まえ、選挙の意義や、政治的無関心の危険性などについて理解している。 ・選挙のしくみ、政党の役割、世論の形成について、さまざまな情報手段を活用して、考察、構想し、表現している。 ・国会の地位と構成・権限、議院内閣制のしくみ、内閣総理大臣の権限、行政の民主化について、理解している。 ・地方自治には、直接民主制の考え方に基づくしくみが、国政よりも多く取り入れられていることを理解しつつ、地方自治の課題についても考察、構想し、表現している。 ・政治参加と公正な世論形成について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	○			<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	主題5 国際社会と国家主権 1 国家と国際法 2 国境と領土問題 3 国際連合の役割と課題	<ul style="list-style-type: none"> ■主権国家が並び立つ国際社会は、どのように成り立っているのかを理解する。 ・国際社会と国家主権に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 ・国際法の意義と役割について、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 ・国際社会と国家主権について、国境や領土をめぐる諸課題を主体的に解決するために、必要な情報を収集し、考察、構想している。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 ・国際連合などの国際機関の役割や課題について、国際平和の維持と安定のために広い視野に立って考察、構想したことを、論拠をもって表現している。 ・国際社会と国家主権について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	○			<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
10	主題6 日本の安全保障	<ul style="list-style-type: none"> ■日本国憲法の平和主義の下、私たちが果たすべき責任を理 				<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度

月	学習項目	■学習内容(ねらい) ・評価の観点	a	b	c	評価方法
	と防衛 1 平和主義と安全保障 2 核兵器の廃絶と国際平和	<p>解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本国憲法の平和主義について理解を深めることができるように、現実社会の諸課題に関わる諸資料から、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 日本国憲法の平和主義をふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 核兵器を廃絶するためには何が必要かを考え、軍縮の意義や効果について、さまざまな観点から考察している。 日本の安全保障と防衛について、国連憲章や日米安全保障条約、平和主義を掲げる日本国憲法の下、現代の諸課題の解決に向けて、主体的に取り組もうとしている。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査
	主題7 国際社会の変化と日本の役割 1 今日の国際社会 2 人種・民族問題と地域紛争 3 国際社会における日本の役割	<ul style="list-style-type: none"> 国際社会を実現するために必要な日本の役割を理解する。 国際社会の変化と日本の役割に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 人種・民族問題と地域紛争の実態、難民問題にする資料を、さまざまな情報手段を用いて収集し、課題の解決に向けて、国際社会では何がおこなわれているか、理解している。 変化する国際情勢の中で、日本の安全が世界の平和の維持といかに関連しているか、広い視点に立って理解し、さまざまな観点から考察している。 持続可能な開発(SDGs)にふれながら、国際社会の安定について、国民レベル、国家レベル、国際レベルで何ができるかを、さまざまな観点から考察し、論拠をもって表現している。 国際社会の変化と日本の役割について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査
11	第3章 経済的な主体となる私たち	<ul style="list-style-type: none"> 公正かつ自由な経済活動をおこなうことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解する。 				
	主題8 雇用と労働問題 1 私たちと経済 2 労働者の権利と労働問題	<ul style="list-style-type: none"> 少子高齢化による労働力不足が問題となる中、活発な経済活動と労働者の働きやすさを共に成り立たせるために必要なことを理解する。 仕事と生活との調和という観点から、雇用と労働問題に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 企業・家計・政府の三つの経済主体を考え、経済的な主体となる私たちは、どのように経済活動に参加しているのか、理解している。 雇用と労働問題について、日本的雇用慣行の崩れなど、現代の諸課題を主体的に考察、構想し、論拠をもって表現している。 近年の雇用事情の変化とさまざまな労働問題について、具体例をあげて多角的に考察、構想し、論拠をもって表現している。 雇用と労働問題について、現代の諸課題を主体的に解決し、自分の将来のあり方について考えようとしている。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査
	主題9 社会の変化と職業観 1 技術革新の進展と産業構造の変化 2 企業の活動 3 農林水産業の現状とこれから	<ul style="list-style-type: none"> グローバル化・情報化・少子高齢化が進む現代社会において、将来の働き方をどう考えていけばよいか理解する。 社会の変化と職業観について、人工知能の進化の影響など、現代の諸課題を理解している。 技術革新の進展による生活の変化、産業構造の変化、経済のサービス化・ソフト化について、身近な問題と関連させて考察、構想し、論拠をもって表現している。 企業の役割や種類から、株式会社のしくみや企業の社会的責任について考察、構想し、論拠をもって表現している。 農林水産業の現状と今後について、さまざまな情報を基に考察、構想し、論拠をもって表現している。 社会の変化と職業観について、現代の諸課題を主体的に解決し、自分の将来のあり方について考えようとしている。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査
12	主題10 市場経済の機能と限界 1 市場経済と経済運営 2 市場経済のしくみ 3 経済発展と環境保全 4 経済成長と国民福祉	<ul style="list-style-type: none"> 公正で自由な経済活動を通して、市場が効率的な資源配分を実現できるしくみを理解する。 経済の基本的なしくみと資本主義経済、社会主義経済の特徴を理解している。 価格の変化が、消費者と企業の行動にどのように影響を及ぼしているか、さまざまな観点から多面的・多角的に考察、 	○	○		<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査

月	学習項目	■学習内容(ねらい) ・評価の観点	a	b	c	評価方法
		<p>構想し、論拠をもって表現している。</p> <ul style="list-style-type: none"> 市場経済の機能と限界に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 市場機能の限界に対する公共財の供給について、政府の役割を多角的に考察、構想し、論拠をもって表現している。 外部不経済の典型例である公害について理解し、公害を防止し環境を保全するための方策について考察、構想し、論拠をもって表現している。 経済成長が生活に与える影響を、具体的事例をあげて考察している。 市場経済の機能と限界について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	○	○	○	
1	主題 11 金融のはたらき 1 金融の意義や役割	<ul style="list-style-type: none"> ■経済において、金融市場はどのような役割を果たしているのかを理解する。 金融のはたらきに関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 資金の流れ、金融機関の役割、日本銀行の役割について理解している。 家庭科など他教科で学んだ知識もふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 金融のはたらきについて、現代の諸課題を主体的に取り組もうとしている。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
1	主題 12 財政の役割と社会保障 1 政府の経済的役割と租税の意義 2 社会保障と国民福祉	<ul style="list-style-type: none"> ■少子高齢化が進む中で、財政や社会保障を持続可能なものにするために、政府はどのような役割を果たしていくべきなのかを理解する。 財政の役割と社会保障に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 財政政策の意義、日本の財政の課題を理解し、財政のしくみ、租税の意義と課題について、具体的に事例をあげて考察、構想し、主体的に考えている。 社会保障の意義を理解し、現在の社会保障の課題について考察している。 社会保障制度の充実・安定化に関し、各国の租税負担など財政状況を比較しながら、日本の社会保障制度の諸課題を多面的・多角的に考察、構想、表現している。 財政の役割と社会保障について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
2	主題 13 経済のグローバル化 1 国際分業と国際貿易体制 2 国際収支と為替相場 3 経済のグローバル化と日本 4 地域的経済統合の動き 5 国際社会における貧困や格差 6 地球環境問題 7 資源・エネルギー問題 8 国際社会のこれから	<ul style="list-style-type: none"> ■経済がグローバル化の中で、貧困や格差などの問題を乗り越え、すべての人が幸福に暮らすために、国際社会や私たちがどうあるべきか考える。 経済のグローバル化に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 グローバル化の進展により、貧困や格差の問題、地球環境問題などの解決が、地球的な課題となっていることを理解している。 貿易の意義、円高・円安が生じる理由、貿易摩擦などについて、考察、構想し、表現している。 国際経済問題の解決には、国家や国際機構などの多様な組織による協力が重要であることを理解している。 地域的経済統合がもたらす影響について理解している。 国際社会における貧困や格差が解消されていない現状について、国際機構の役割や政府開発援助の意義が大きいことを理解している。 地球環境問題が国際的な問題になっていることや、その解決に向けての取り組みを考察、構想し、表現している。 資源の有限性を理解しつつ、新エネルギーなどの開発が期待されていることを理解している。 地理など他教科で学んだ知識もふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、政治分野の国際機構の取り組みなどとも関連させ、多面的・多角的に考察し、表現している。 国際協力のあり方、国際協調の重要性から、日本の役割について自分自身の問題として、主体的に解決しようとしている。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査

月	学習項目	■学習内容(ねらい) ・評価の観点	a	b	c	評価方法	
3	第3編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち ①地球環境問題～排出量取引を考える ②資源・エネルギー問題～ベストミックスを考える ③生命倫理～ゲノム編集を考える ④情報～インターネットによる投票を考える ⑤国際社会の課題～フェアトレードを考える	■持続可能な地域、国家・社会及び国際社会づくりに向けた役割を担う、公共の精神をもった自立した主体となることに向けて、幸福、正義、公正などに着目して、現代の諸課題を探究する活動を行う。 ・地域の創造、よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し、共に生きる社会を築くという観点から課題を見いだしている。 ・課題の解決に向けて事実を基に協働して考察、構想し、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、論拠を基に自分の考えを説明、論述している。 ・現代の諸課題を、「第1編 公共の扉」で学んだことを基に、幸福、正義、公正や公共的な空間における基本的原理を用いて、考察、構想し、論拠をもって表現して。 ・現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。		○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・レポート作成 ・発表 ・定期考査

令和5年度 倫理シラバス

科目	倫理	単位	2および3	学年	3	1・2, 3・4, 5・6組(2単位)	8組(3単位)	科目担当	仲宗根 義紀	
使用教科書		高等学校 改訂版 倫理(第一学習社)				副教材等		テオリーア最新倫理資料集(第一学習社)		

学習の到達目標	人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成と人間としてのあり方生き方について理解と思索を深めさせるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、他者とともに生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。
---------	--

評価の観点			
a. 関心・意欲・態度	b. 思考・判断・表現	c. 資料活用技能	d. 知識・理解
人間尊重の精神と自己形成について関心を高め、人格の形成と生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲を持つとともに、これらに関わる諸課題を探究する態度を身につけ、人間としてのあり方生き方について自覚を深めようとする。	生きる主体としての自己の確立について広く課題を見いだし、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探究するとともに、良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断し、その過程や結果を様々な方法で適切に表現する。	青年期における自己形成や人間としてのあり方生き方などに関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択して、これらを自己形成に資するように活用し、学び方を身につける。	青年期における自己形成や人間としてのあり方生き方などに関わる基本的な事柄を、生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身につけている。

月	学習項目	学習内容(ねらい) および評価の観点	a	b	c	d	評価方法
4	1章 青年期の課題と自己形成 ①よく生きることを求めて ②青年期の課題 1-青年期とは何か 2-青年期の思考と感情 3-青年期の人間関係 4-青年期の自己形成	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の特質とは何かを理解する。 ・自分の生きている青年期はどのような位置にあり、どのような発達課題があるのかを考える。 ・青年期の心身の特徴を把握するとともに、青年期の悩みの心理的特徴に気づき、悩むことが自己形成につながることを理解する。 ・高校生の意識調査の結果を分析し、そこに現れている現代の高校生の特徴を読み取る。 ・自分自身の心に起こる状態を防衛機制の図にあてはめて考え、粘り強く欲求を抑制し、調整しながら目標達成を図る必要性を理解する。 ・生きることの意味についていろいろな視点から考え、今後の自分の生き方に生かす知識として身につける。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
5	2章 人間としての自覚 ①ギリシャの思想 1-哲学の形成 2-ソクラテス 3-プラトン 4-アリストテレス 5-ギリシャ思想の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・ギリシャの思想家のものの見方・考え方を理解することにより、古代ギリシャの思想は、私たちにどのような意味を持つのかを考える。 ・ソクラテスの「無知の知」やプラトンのイデア論はどのようなものであるか、両者を比較しながら考察する。 ・「ソクラテスの言葉」から「よく生きることこそ大切である」という彼の信念を読み取る。 ・アリストテレスの現実主義の立場を、プラトンのイデア論と対比しながら理解する。 ・ポリス中心の考え方にかわり、個人の内面的平安を求める思想が現れたことを理解する。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
6	②キリスト教 1-ユダヤ教の世界 2-イエス 3-キリスト教の発展	<ul style="list-style-type: none"> ・世界で起こっている宗教を原因とする争いを調べ、宗教とは何かについて、意欲的に考察する。 ・哲学や宗教の意義を考え、先人の生き方を手がかりに、どのように生きていくべきかを学ぶ。 ・イエスの思想をユダヤ教と対比させて、神の愛・律法の内面化という視点を中心に理解する。 ・キリスト教信仰の構造に関心を持ち、キリスト教的な生き方や人間観の特徴を、興味を持って探究する。 ・キリスト教が愛の宗教であるといわれるのはなぜかを多面的・多角的に考察する。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	③イスラーム	<ul style="list-style-type: none"> ・イスラームはどのようにして誕生したか、ムハンマドの教えにはどのような特徴があるのか、ユダヤ教やキリスト教とはどのように関係するかを理解する。 ・メッカの方向を調べるなどして、イスラームの基本的教義(六信・五行)を実感する。 ・『クルアーン』を読み、日常の生活で行うことまで規定していることを理解する。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査

月	学習項目	学習内容(ねらい) および評価の観点	a	b	c	d	評価方法
6	④仏教 1ーインドの思想文化 2ーゴータマの教説 3ー仏教思想の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・インドの人々はどのような死生観を持っているかを理解する。 ・ゴータマの教えは、深い思索を続ける生き方そのものであることを理解する。 ・日本に最もなじみの深い宗教である仏教の教えを知り、仏教思想の現代的な意義はどこにあるのかを考察する。 ・「ゴータマの言葉」を味わい、仏教の基本である、人間どうしが支え合いながら生きていくという視点を読み取る。 ・ゴータマが説いた縁起や四諦とは何かを理解する。 				○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
7	⑤中国の思想 1ー中国の思想文化 2ー儒家の思想 3ー道家の思想	<ul style="list-style-type: none"> ・中国の人々の自然観・人生観を理解する。 ・陰陽五行や風水など、身近なものにも中国の思想との関わりがあることを知り、中国の思想に対する興味・関心を高める。 ・中国の思想は、歴史的に日本に最も大きな影響を与えたものであることを知り、私たちの現在や未来にどのような関わっているのかを考察する。 ・『論語』の中の孔子の言葉から、中国の思想の根本を読み取る。 ・西洋と東洋の源流にある思想を比較して、人間の生き方について説いている内容の共通点と相違点を調べ、発表や討論をする。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
9	3章 国際社会に生きる日本人としての自覚 ①日本の風土と伝統	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人の精神的特性が、日本の風土とどのように関連しているのかを考える。 ・書籍や聞き取り調査などから日本の神話や伝承に関する諸資料を収集し、古代の日本人がどのような倫理意識を持っていたのかを理解する。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	②外来思想の受容 1ー日本仏教の展開 2ー日本儒学の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の思想や文化に大きな影響を与えている仏教や儒教が日本にどのように伝えられ、どのように変容していったのか、その大きな流れを把握する。 ・法然、親鸞、一遍、栄西、道元、日蓮に関する資料を収集し、鎌倉仏教の各宗派の教義や特色を理解する。 ・日本人の価値意識と儒教との関連について理解し、正の部分、負の部分をとともに検討する。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	③町人意識のめざめと庶民思想 1ー義理と人情 2ー国学の成立 3ー庶民の思想 4ー伝統思想の成熟	<ul style="list-style-type: none"> ・義理と人情、儉約と正直、勤労の倫理など、現代に流れる思想に対する興味・関心を高め、日本人の庶民思想や勤労倫理の特質はどこにあるのかに気づく。 ・国学の思想と私たちの考え方で、共通するところ、異なるところ、共感するところなどを発表する。 ・義理と人情の観念、国学が提唱した人間尊重の思想、現代に流れる庶民思想は、どういうものかを理解する。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
10	④西洋思想との出会い 1ー幕末の思想 2ー明治の啓蒙思想 3ー日本社会とキリスト教 4ー近代的自我の確立 5ー社会思想の展開 6ー近代日本の思想課題	<ul style="list-style-type: none"> ・幕末の思想の特質や、文明開化が日本の伝統社会にどのような変化をもたらしたかを把握する。 ・日本の近代思想がどのように展開していったかを理解する。 ・日本人のものの見方・考え方の中で、西洋思想の受容によって形成されたと考えられるものについて資料を収集し、国際社会に生きる日本人としての生き方・考え方をまとめる。 ・日本思想のまとめとして、国際社会に生きる日本人として、これからの自分の生き方やあり方について考える意欲を高め、今後の生き方について考える。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	4章 現代に生きる人間の倫理 ①人間の尊厳 1ールネサンスと宗教改革 2ー人間性の探究	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の尊厳に関わる思想家の思索を通して、西洋の近代人は、人間の尊厳をどこに見いだしていたのかを考える。 ・現代社会において人間の尊厳を自覚することの意義について考える。 ・先哲の思想の中から、人間の尊厳に関わる資料を収集し、活用する。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
11	②近代の科学革命と自然観 1ー近代の科学革命 2ー経験論と合理論 3ー近代科学と社会の進歩	<ul style="list-style-type: none"> ・近代の科学はどのような背景から生まれてきたのかを理解する。 ・ベーコンやデカルトによる科学的な考え方の特色を理解し、科学技術の発達と自然との共生についての興味・関心を高める。 ・ベーコンやデカルトの著作を読み、自然は人間の手によって操作できるとする新しい自然観をつかむ。 ・経験論と合理論の考え方の特色はどこにあるのかを、自己の課題とつなげて理解する。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査

月	学習項目	学習内容(ねらい) および評価の観点	a	b	c	d	評価方法
11	③自由で平等な社会の実現 1-社会契約の思想 2-人格の尊厳と自由 — カント 3-人倫と自由の実現 — ヘーゲル 4-功利主義の思想	<ul style="list-style-type: none"> 近代ヨーロッパの社会契約説を通して、民主社会の成り立ちを理解し、民主社会を実現した社会契約の思想について、多面的・多角的に考察する。 ホブズ、ロック、ルソーに関する資料を収集し、社会契約の思想の違いを整理する。 現在の政治的自由は、ヨーロッパ近代の市民革命を基礎づけた思想家たちの考えに基づくことを理解する。 カントやヘーゲルの思索の内容を整理して理解する。 西洋近代の思想家たちは、自由の実現についてどのように考えたのか、多面的・多角的に考察する。 ベンサムやミルの幸福に対する考え方の違いを理解する。 功利主義の思想からよく生きるとはどのようなことかを理解し、自分自身の生き方につなげる。 		○		○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査
12	④人間性の回復と主体性の確立 1-社会主義の思想 2-実存主義の思想 3-プラグマティズムの思想	<ul style="list-style-type: none"> 社会主義の生まれた背景とその発展過程、現代の社会主義について考察する。 実存主義が追究した生き方とはどのようなものかを理解する。 主体的なあり方は、努力を伴う生き方であることを、実存主義の思想から考察する。 略伝や図版を活用して、思想家の人生をたどりながら思想内容を理解する。 		○		○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査
1 2 月	⑤現代の思想と人間像 1-心の深層と無意識 2-生の哲学と現象学 3-近代的理性と言語 4-正義と社会 5-他者と偏見	<ul style="list-style-type: none"> 前節までの学習を踏まえ、現代の思想は、それまでの思想からどのような影響を受け、それらをどのように乗り越えようとしているかを考察する。 フロイトやレヴィー・ストロースらの著作を読み、現代の思想が発見したり注目したりしてきたものは何かを理解する。 ロールズ、センらの思想から、私たちは何を学ぶことができるかを考察し、これからの生き方につなげる。 		○		○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査
	⑥生命への畏敬と社会参加	<ul style="list-style-type: none"> 実践された倫理を貫いた人々の生き方に対する興味・関心を高め、生命への畏敬や本当の愛とはどのようなものかを理解する。 さまざまな思想家の主張を振り返りながら、私たちの生き方はどのようなものであればよいのかを、多面的・多角的に考察する。 思想家の言葉から、自らの思想をそのままに生き、一生そのようにし続けた生き方をつかむ。 		○		○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査
	5章 現代の諸課題と倫理 ①生命の問題と倫理課題 1-生殖医療と遺伝子操作 2-脳死臓器移植と再生医療 3-自己決定の尊重と末期医療	<ul style="list-style-type: none"> クローン技術、遺伝子組換え、脳死臓器移植、安楽死と尊厳死、医療における自己決定権などのテーマから、探究したい課題を見だし、多面的・多角的に考察する。 生命をめぐる問題となっている事例を収集し、主体的に選択して活用する。 探究した結果を「問題点を話し合う」「自分の考えを文章にまとめる」などの方法で適切に表現する。 		○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 ノート提出 レポート作成 発表 定期考査
	②環境の問題と倫理課題 1-有限な地球環境 2-生物多様性と自然との共生 3-予防原則と世代間倫理	<ul style="list-style-type: none"> 地球規模だけでなく、身近なところで起こっている環境問題について調べ、有限な資源を未来の世代にも配分するには何をすればよいか、環境倫理の考え方はどのようなものか、などについて考察する。 地球環境問題、環境保護活動、循環型社会をめざす取り組み、将来の世代に対する責任などのテーマから、探究したい課題を見だし、多面的・多角的に考察するとともに、広い視野に立って主体的かつ公正に判断する。 探究した結果を「問題点を話し合う」「自分の考えを文章にまとめる」などの方法で適切に表現する。 		○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 ノート提出 レポート作成 発表 定期考査

月	学習項目	学習内容(ねらい) および評価の観点	a	b	c	d	評価方法
1 2 月	③家族・地域社会と倫理課題 1-少子化と男女共同参画社会 2-高齢化と地域社会	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢社会の問題点を、家族の形態や地域社会はどのように変化してきたか、それらに期待される役割とはどういったものか、などについて考察する。 ・核家族化や少子化の進行に伴う家族関係の変容、男女共同参画時代の夫婦のあり方、高齢者と地域社会のあり方などのテーマから、探究したい課題を見だし、多面的・多角的に考察するとともに、広い視野に立って主体的かつ公正に判断する。 ・家族・地域社会をめぐって問題となっている事例を収集し、主体的に選択して活用する。 ・探究した結果を「問題点を話し合う」「自分の考えを文章にまとめる」などの方法で適切に表現する。 	○	○		○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・レポート作成 ・発表 ・定期考査
	④情報社会と倫理課題 1-情報の洪水と情報リテラシー 2-ネットワーク社会と情報モラル	<ul style="list-style-type: none"> ・情報社会を生きていくために必要な能力、情報モラルに関する問題などのテーマから、探究したい課題を見だし、多面的・多角的に考察するとともに、広い視野に立って主体的かつ公正に判断する。 ・高度情報化やネットワーク社会をめぐって問題となっている事例を収集し、主体的に選択して活用する。 ・探究した結果を「問題点を話し合う」「自分の考えを文章にまとめる」などの方法で適切に表現する。 	○	○		○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・レポート作成 ・発表 ・定期考査
	⑤宗教・文化と倫理課題 1-宗教信仰への理解と現代世界 2-異文化理解と多文化共生	<ul style="list-style-type: none"> ・異文化を理解するためには、社会全体でどのような取り組みが必要かを考察する。 ・多様な外国人と交流する際の倫理的課題は何か、などのテーマから探究したい課題を見だし、多面的・多角的に考察するとともに、広い視野に立って主体的かつ公正に判断する。 ・グローバル化が進む現代において、異文化を理解するにあたり問題となっている事例を収集し、主体的に選択して活用する。 ・探究した結果を「問題点を話し合う」「自分の考えを文章にまとめる」などの方法で適切に表現する。 	○	○		○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・レポート作成 ・発表 ・定期考査
	⑥国際平和と人類の福祉 1-地球市民として 2-平和な世界に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・各国間の経済格差の解消、自立を支援するための援助、難民や女性・子どもの人権保障、核兵器の廃絶など、人類全体の福祉実現に向けた取り組みを調べ、地球市民としての生き方を探究する。 ・頻発する地域紛争や民族紛争、難民問題、戦争と核兵器の廃絶の問題、などのテーマから、探究したい課題を見だし、多面的・多角的に考察するとともに、広い視野に立って主体的かつ公正に判断する。 ・人類の福祉をめぐって問題となっている事例を収集し、主体的に選択して活用する。 ・探究した結果を「問題点を話し合う」「自分の考えを文章にまとめる」などの方法で適切に表現する。 	○	○		○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・レポート作成 ・発表 ・定期考査